



2008年の九大ニュース

■移転を控えた六本松キャンパスで最後のイベント



六本松最後のホームカミングデー（11月22日）



OBも参加し大いに盛り上がった田島寮祭樽御輿（7月5日）

平成21年4月に六本松キャンパスが伊都キャンパスに移転することになり、本年度で最後となる六本松でのイベントが盛り上がりました。7月5日には、男子学生寮「田島寮」の寮祭の52回目の『樽神輿（たるみこし）』が盛大に開催され、田島寮に寄宿する1年生100名が赤・青・黄色のふんどし姿で福岡市内を練り歩きました。また、11月22日には、第3回ホーム・カミングデー～さようなら そしてありがとう 六本松～が開催され、多くの卒業生が参加し、懐かしの写真展・絵画展、懇親会、講演会などで新旧両面から九大のキャンパスを満喫しました。

当日六本松キャンパスでは、九大祭も開催されており、参加者からは、移転するキャンパスに名残を惜しむ声が聞かれました

■稲盛財団、京セラから本学に贈り物



左：3月18日の贈呈式にて（左より、中村会長，梶山総長，稲盛理事長）

右：「稲盛財団記念館」（中央の白い建物）の模型

財団法人稲盛財団から「稲盛財団記念館」が、京セラ株式会社から「稲盛フロンティア研究センター一奨学寄附金」が、九州大学に寄附されることになり、3月18日（火）に贈呈式が行われました。今回の寄附は、九州大学が2011年に創立百周年を迎えるに当たり、伊都キャンパスに「知の新世界を拓く」教育研究拠点を構築したいという九州大学の希望に、財団法人稲盛財団と京セラ株式会社にご賛同いただき実現しました



2008年の九大ニュース

■ 関西での情報発信強化



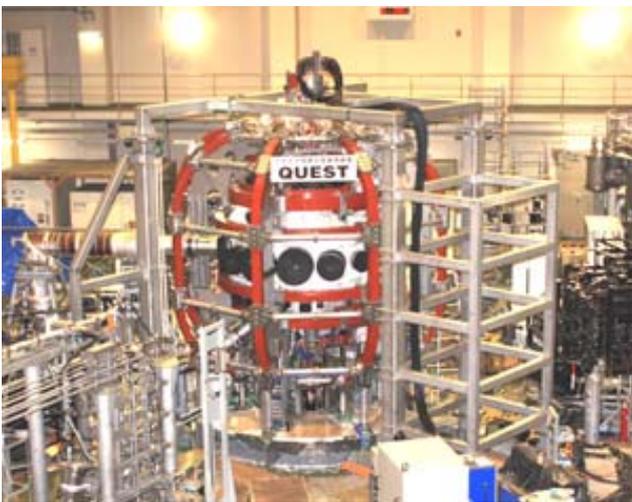
大阪オフィス開所式の様子（6月25日）



関西同窓会設立式典（6月25日）

九州大学は、関西地区での本学の拠点、「九州大学大阪オフィス」を開設し、6月25日に開所式を行いました。また、同日には関西地区及びその近隣に在住する九州大学同窓生で組織する学部横断的な「九州大学関西同窓会」を設立しました。九州大学では既に東京オフィスを設置していますが、関西オフィスを設置したことにより今後、関西地区における情報収集・発信力を強化していきます。

■ エネルギー・環境キャンパスの実現に向けたプロジェクトの進展



完成したQUEST装置（6月26日撮影）

エネルギーキャンパスの実現に向け、本年度は様々なプロジェクトが動き出しました。3月には応用力学研究所高温プラズマ力学研究センターに新装置 QUEST が完成し、4月には炭素資源国際教育研究センターが設置され、また、10月には水素ステーションの再開計画を発表しました。「炭素資源」、「水素エネルギー」、「核融合エネルギー」と我が国の新エネルギー研究開発の拠点へ向けた研究が着実に進んでいます。



2008年の九大ニュース

■新たな研究プロジェクト及び先端医療拠点としての取り組み



左上：先端融合医療レドックスナビ研究拠点開所式（3月21日）

右上：油症ダイオキシン研究診療センター設置記念式典（5月8日）

左下：病院ヘリポート開港式（7月10日）

大型研究プロジェクト及び先端医療拠点としての新たな取り組みが着実に進んでいます。

まず、10月には戦略的創造研究推進事業（ERATO型研究）として先導物質化学研究所の高原淳教授の研究提案が採択され、10月15日に高原教授を研究総括とする「高原ソフト界面プロジェクト」がスタートしました。

また、3月21日（金）にレドックス関連疾患（生活習慣病）の分析、早期診断・治療、創薬について研究を推進する先端融合医療レドックスナビ研究拠点が開所、5月8日（木）には、油症そのものの解明、新たな治療法の開発などを目的に油症ダイオキシン研究診療センターを設置しました。また、7月10日（木）には病院ヘリポートを開港するなど、生命医療拠点としての新たな取り組みも進んでいます。

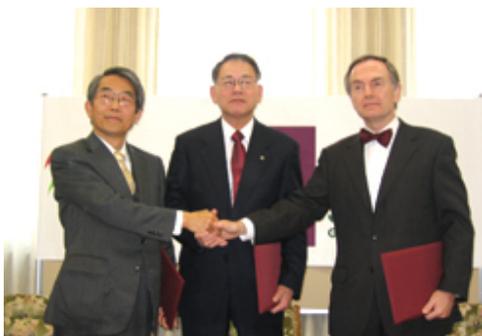
■学研都市として整備が進む伊都地区



福岡市産学連携交流センター開所式（4月16日）

学術研究都市としての伊都地区の整備が順調に進んでいます。4月16日（木）には、伊都キャンパス直近に、ナノテクノロジーをはじめとする最先端の科学技術研究を活かし、新技術・新産業の創出を目指す施設として、福岡市産学連携交流センターがオープン。また、5月にはダイハツ九州が、開発拠点である「開発センター」の設置を発表しました。

■大学間での連携強化



4月11日（金）福岡女子大学、西南学院大学との連携協定締結調印式にて

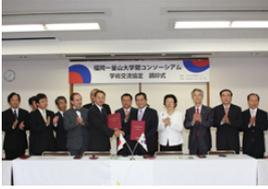
4月11日（金）、九州大学、福岡女子大学、西南学院大学の3大学は、連携協力に関する基本協定書に調印しました。また、9月19日（金）、九州大学、福岡工業大学（代表校）、福岡女子大学、西南学院大学の4大学による「国公立大コンソーシアム・福岡」が発足しました。今後このような大学間の連携による教育研究活動の一層の充実と向上を図ることにより、わが国はもとより、アジアをはじめとする世界の学術の発展と有為な人材の育成などに務めて参ります。



2008年の九大ニュース

■新たな国際展開

- ・福岡－釜山大学間コンソーシアムに参画（9月）



福岡・釜山地域に属する大学間において、教職員の交流の活性化、相互交流を通じて学生への体験学習の機会の提供、地域社会に対する教育サービスなどを展開、人材育成に取り組みながら学術協力を推進することを目的とした「福岡－釜山大学間コンソーシアム」に参画しました。今後、両地域での学術・学生交流の活性化と、日韓の相互理解の促進が期待されます。

- ・経済学府と中国人民大学経済学院とのダブルディグリー（9月）



経済学府が中国人民大学経済学院との間で、共同教育（ダブルディグリー）プログラムに関する覚書に調印しました。これにより、両大学大学院に通算3年間在籍することにより、両大学から修士号を取得することが可能となり、経済学分野の大学院におけるダブルディグリープログラムとしては、日本の大学で、きわめて先駆的な試みとなります。

この他にも、国際化加速プログラムに採択（8月）、九州大学・ASEAN教育交流プログラム（6月）など、アジアに開かれた世界の拠点大学の地位を築くためのさまざまな取り組みが始まりました。

■梶山前総長が退任、有川新総長が就任



10月1日、第22代九州大学総長に有川節夫前理事・副学長が就任しました。

10月2日（木）に行われた就任挨拶の中で、有川総長は、「九州大学は、アジアに開かれた知の世界的拠点大学として、また、西日本を代表する基幹総合大学として、都市と共に栄え、市民の誇りと頼りになる大学として発展し続けることが期待され、宿命づけられている。平成23年（2011年）に総合大学として創立百周年を迎え、その百年の伝統を基盤とし、知の新世紀を拓くために5つの活動指針に基づいて活動していく」と、今後の方針を示しました。

上：10月2日（木）総長就任記者会見での有川総長

下：同日の記者会見での総長、理事

